

# 保護者会報誌からみるコロナ禍前後の保護者の関心及び関係性の変化

○ 栗原 啓祥 (清心幼稚園)  
境 愛一郎 (共立女子大学)

## 1. 問題と目的

保育施設による保護者への情報発信は、園だよりや学級だよりなどを通して、幼児の様子や成長の姿を伝え合い、幼児期の教育に関する理解が深まるようにすること(文部科学省, 2018)、感染症拡大防止の観点からは、子どもの疾病への理解、感染予防を心がけられるよう適切な情報を伝えるよう求めている(厚生労働省, 2018)。その一方、日本保育協会がとりまとめた「保育所等の情報公開・情報発信に関する調査研究報告書(平成 29 年度)」では、子どもの育ちに必要な項目の情報発信が軽視されている現状が指摘され、保護者へのアンケート結果からは、日々の保育士とのやり取りが一番有益な方法との認識も示されている。しかし、2020 年以降、その後約 3 年にわたり、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大予防に努めつつ保育実践する事態が生じ、特に 2020 年度の登園自粛、非接触推進時は、保護者に直接情報を伝達することが難しくなった。その状況下、登園自粛家庭に対して紙媒体のお便りだけでなく、オンラインでやり取りする、動画配信する(天野, 2021) 試みもあったが、保護者同士の気持ちや情報を共有する場が減り、孤立感を深めたり親子共にストレスが高まっていたりしたことから、これまで以上に園と保護者、保護者同士の情報内容の充実と発信方法の工夫が求められてきた背景がある(杉江ら, 2021)。

保護者同士の情報交換の場としては、保育施設における保護者会組織が一定の役割を果たしてきた記録がある。大正期から昭和初期の保護者会組織(母の会)の変遷に関する研究では、園長ノートから、保護者会活動が子どもの育ちをサポートしていく役割を担うだけでなく、母親同士の親睦が図られていたこと、同時に保護者の成長を促していることを指摘している(佐藤, 2022)。昨今の保護者会活動は、園行事等の補助や運営に留まらず、地域や行政に対して働きかけを行う(脇本, 2006)、保護者会主催イベントやサークル運営、保護者間の交流を図り、機関誌等を発行する(北浦・重田, 2004)、保護者同士の子育ての不安を語り合い軽減するなど(田丸, 2012)、保護者会組織の多様な実態と役割が報告されている。保護者会組織やいわゆる PTA 活動に対しては、仕事との両立の困難さや活動目的の不確かさから保護者会組織を廃止する報告もあり(鶴谷, 2012)、現在の社会において保護者会活動組織やその活動内容に課題を抱えている側面も指摘される。

保護者会組織や保護者会主催行事が変遷していく中でも、内外からの問い直しにより、各時期の成員にとって納得性の高い形態に変容させていった報告がある(境・栗原, 2023)。この研究は、保護者会組織が発行する機関誌「藤棚の下で」(1983. 11 創刊)に着目し、40 年にわたる記事から保護者会主催行事のバザー記述について分析し、機関誌

が当時の状況や価値観を映すメディアとして、そうした過程を追跡する手立てになることを証明している。これまで、保護者会報誌に着目した縦断研究はほとんどなく、保護者会報誌が、保護者同士の情報交換の場になっていると推察されるものの、その実態は明らかになっていない。

本研究の目的は、この保護者会機関誌「藤棚の下で」に着目し、コロナ禍前後において、保護者同士がどのような情報発信や情報交換を行っていたのか明らかにし、コロナ禍前後の保護者の関心や関係性の変化について検討することである。

## 2. 対象と方法

### (1) 研究対象について

① 保護者会が発行する機関誌「藤棚の下で」

「藤棚の下」では、清心幼稚園の保護者会組織「幸の会」が会員向けに発行する機関誌である。会員が「幸の会」の活動を知る広報、保護者会主催行事の紹介や参加依頼、園の歴史や園行事についての情報、並びに「幸の会」活動の記録・継承のため 1983 年に創刊された。現在 95 号(2023. 9)まで発行され、発行時期は年 2 回と年 3 回のケースがある。年 3 回の場合は 7 月・12 月・3 月と学期末ごとに発行していることが多く、頁数は最も少ない時は 8 頁、多い時は 20 頁を超えている。なお、2014 年度までは B5 版、それ以降は A4 版に変更されていた。また 2000 年度までは編集委員が掲載記事の原稿を手書きし、それを印刷していた。

② 「藤棚の下で」の主な記事について

1983 年の創刊時からおよそ 10 年間は、保護者会主催の「バザー」に関する記事が多くみられた。その後、バザーのあり方の問い、見直しが行われ、バザーに関する記事は減少した。そのほかには、園行事に参加した保護者の感想、清心幼稚園の歴史にまつわるエピソード、先生紹介などの記事が見られた。6 号(1986. 3)以降、卒業する年長児が絵を描き、さらにその子どもの「楽しかった思い出」「将来何になりたいか」などを掲載する特集が始まり、これは形態を変えつつ現在も続いている。1994 年に園長が代替わりし、新たな園長が園の子どもの姿を記事にする機会が増え、保護者もそれに準じるかのように、子どもの姿や園生活について語る記事掲載が増えている。57 号(2006. 7)以降、園側が情報を発信するコーナーが作られ、保護者の質問や疑問に答える、編集委員や保護者会役員らと園が座談した記録等を継続的に掲載するなどした記事もみられる。2015 年に幼保連携型認定こども園に移行し、自園調理も始まったことから、給食メニューのレシピを紹介するなど新たな記事も随時企画されている。

### (2) データ収集と分析の方法

コロナ禍対応が迫られる 3 年前の 83 号(2017. 9)から 95 号(2024. 7)までを取り上げ、著者、タイトル、頁数、種類、

読み取れる記述を整理し一覧表を作成した。その後、コロナ禍以前と、コロナ禍以降に区分し、掲載記事にどのような変化が起きているか検討する。なお、広報誌の執筆と発行には多少のタイムラグがあることを考慮し、本研究では2017年から2020年3月までの記事をコロナ禍以前、2020年4月以降をコロナ禍以後として扱う。また、補足資料として保護者会役員会議の記録を参照した。

### 3. 結果と考察

#### (1) コロナ禍前後の会報誌の概略

2017年から2024年までの会報誌の概略は以下の通りである(表1)。

| コロナ禍 以前<br>(2017年9月～2020年3月) |    |    |     | コロナ禍 以降<br>(2020年12月～2024年7月) |    |    |     |
|------------------------------|----|----|-----|-------------------------------|----|----|-----|
| 発行年月                         | 号  | 頁数 | 記事数 | 発行年月                          | 号  | 頁数 | 記事数 |
| 2017.9                       | 83 | 12 | 6   | 2020.12                       | 89 | 14 | 7   |
| 2018.3                       | 84 | 18 | 10  | 2021.3                        | 90 | 21 | 10  |
| 2018.7                       | 85 | 12 | 6   | 2021.11                       | 91 | 20 | 8   |
| 2019.3                       | 86 | 21 | 11  | 2022.3                        | 92 | 22 | 12  |
| 2019.7                       | 87 | 12 | 6   | 2022.11                       | 93 | 20 | 8   |
| 2020.3                       | 88 | 19 | 10  | 2023.3                        | 94 | 24 | 12  |
|                              |    |    |     | 2024.7                        | 95 | 22 | 8   |

(表1) コロナ禍前後の会報誌の概略比較

コロナ禍以降、頁数、記事数ともに増える傾向にある。91号(2021.11)、93号(2022.11)、95号(2024.7)は、いずれも8トピック数の割に20頁以上で構成され、一つのトピックに対する情報量の厚みが生じていると推察される。なお86号(2019.7)は、保護者会主催行事(清心フェスティバル)が開催されたため頁数が多い。

#### (2) コロナ禍以前の会報誌(2017年～2020年)

##### ① 類似記事を毎年重ねる安定感

83号(2017.9)から88号(2020.3)の間、毎年度2回発行されている。卒業する年長児の特集を除くと、おおよそ次のような記事が掲載される傾向があった。

- ・保護者会会長と園長の自由な寄稿文(自由寄稿)・園行事に参加した感想(行事体験感想)・園生活を振り返って思うこと(園生活)・先生や職員の自己紹介(教職員紹介)、広報を作成する委員と園との座談記録や、Q&A形式による保護者への情報提供(園との情報共有)・編集委員や保護者会役員、各委員による活動報告(振り返り)やそのお礼(挨拶)

「振り返り」の記事では、保護者同士の交流による前向きな記述に溢れていた。つながる交流が前提となり、その結果、保護者会活動と会報誌によって、本当の保護者の関心が表現しにくくなっている可能性が示唆された。

##### ② 子どもの育ちを実感した語りから広がる共感の生成

「園生活」や「自由寄稿」ではそれぞれの保護者の思いや胸の内が掲載されている。

83号(2017.9)「ある時、先生から教わった歌を「お母さん」この歌知ってる?」と何度も嬉しそうに歌ってくれた娘。子どもの成長感じると共に今後園でどのような日々を過ごし、どのように成長していくのか、親としても楽しみです(年少:母)

83号(2017.9)「娘も入園当初は何をしていいかわからなかったようで、妻が(略)園で楽しく遊べていないのかと心配していたようです。しかし徐々にやりたい事を見つけて行動を広げられるようになり、年中さんの頃にはやりたいことが溢れ出るようになりました(年長:父)

こうした記事は、我が子の育ちで不安になったり、子育ての難しさを感じたりしている保護者を勇気づけ、未来志

向へ向かわせる可能性があるかと推察される。

##### ③ 園のことを、とにかく教えて

「園で飼っているインコの名前が知りたい」などの素朴な質問や子育てに対する疑問、「なぜ遠足が山登りなのか?」など、園の保育の根底に触れる問いまで、園に幅広く質問する記述があった。園側も丁寧に回答しようとする姿勢が見られ、広報誌面の3割を超えた時もあった。

#### (3) コロナ禍以降の会報誌(2020年～2024年現在)

##### ① 園も参画して作成する会報誌の模索

登園自粛解除後、保護者会役員会議において、各委員と園側で今後の会報誌内容について検討している。その際、コロナ禍で、園での子どもの生活が見えにくくなっている、子どもの姿を感じられるような記事が作れたらいいのではという声があった。その後、園で子どもが描いたスケッチや撮影した写真、その時のエピソードを保育者が聞きとって編集、掲載したところ好評で、定番化しつつある。

##### ② それぞれの「今」を共有し、共に成長を分かち合いたい

91号(2021.11)より、家庭の子どもたちの「今」を自由寄稿する企画が立ち上がり、隔刊で続いている。95号(2023.9)では、「子どもの好きな過ごし方」と「清心っ子あるある!?!-お家の方がそれをどのように楽しみましたか?」というテーマで募集し、それぞれ17件、14件の家庭のエピソードが集まり、4頁にわたって掲載された。

##### ③ 園のことを、「今」目線で保育者に語ってほしい

これまでの「園との情報共有」する記事に加え、91号(2021.11)より、保育教諭(主任)が園のエピソードを紹介するコーナー「クローズアップせいしん」の頁ができた。さらに不定期で「先生たちに聞いてみました」というコーナーができ、子育てに関する質問や園の環境について尋ね、それに複数の保育者が回答する記事も掲載され始めた。コロナ禍において、保育者と直接コミュニケーションをとる機会が減少したことを踏まえると、子どもの身近な保育者がどのようなことを考え、子どもとどのように関わろうとしているのかという関心が芽生えることも理解できる。

### 4. 総合考察

コロナ禍後における保護者会報誌は、コロナ禍によって分断された交流や繋がりを回復させようとする機能をもち始めていた。その手段として、園側や保育者をも巻き込みながら、新たな会報誌像へと変容させてきていることがわかる。掲載記事の多様化は保護者の関心の多様化の現れであり、その結果、情報誌化してきているとも捉えられ、今後も経過を追っていききたいと考える。

#### 主な参考文献

- ・日本保育協会(2018)保育所等の情報公開・情報発信に関する調査研究報告書。
- ・天野珠路(2021)コロナ禍における保育所の対応とその課題—子どもと保護者のケアを担う—。鶴見大学紀要。(58)第3部 13-21
- ・杉江栄子・新美洋祐・古橋さつ子・新井美保子(2021)幼稚園・保育所等における保護者への情報発信方法の検討(2)—コロナ下における感染対策と家庭との連携—。愛知教育大学幼児教育研究(22) 45-54。
- ・佐藤古代(2010)戦前期の東洋英和幼稚園における初期母の会活動:母の会記録ノートの検討を中心に。東洋英和大学院紀要(18) 51-68。
- ・田丸尚美(2012)幼稚園への入園が子育てにもたらすもの:幼稚園保護者会による「子育てトーク」の実践から。福山市立女子短期大学紀要(39) 55-60。
- ・境愛一郎・栗原啓祥(2023)幼稚園の保護者会主催行事に対する成員の意味づけの変遷—保護者会報誌「バザー」に関する記述から。日本乳幼児教育学会第33回大会研究発表論文集。294-295。